

第4回 下北地区統合校検討委員会
【会議録】

令和6年7月19日(金)

むつ市政策推進部企画課

1.日 時 令和6年7月19日(金) 13:00 ~15:00

2.場 所 むつ市役所 議会棟 大会議室

3.出席者 【委員】

高橋 興 青森中央学院大学 特任教授

阿部 謙一 むつ市教育委員会 教育長

内田 大輔 むつ商工会議所 会頭

半田 義秋 川内町商工会 会長

越後林 達巳 大畑町商工会 会長

伊藤 文一 大湊高等学校 校長

野呂 政幸 むつ工業高等学校 校長

岩渕 崇 むつ市連合PTA 会長

堺 祐介 大間中学校PTA 会長

畑中 貢 東通中学校PTA 会長

中塚 将行 風間浦中学校PTA 会長

濱田 大臣 むつ工業高等学校PTA 会長

又村 彰 大湊高等学校 同窓会 会長

木村 努 むつ工業高等学校 同窓会 会長

佐々木 一浩 大湊高等学校 後援会 理事長

欠席:石田 佳奈 むつ市連合PTA 副会長

大久保 斉 むつ市連合PTA 副会長

津田 尚樹 佐井中学校PTA 会長

高坂 一弘 大湊高等学校PTA 会長

吉田 成人 むつ工業高等学校 後援会 理事長

【オブザーバー】

○町村

山本 隆 大間町教育委員会 教育長

村上 純一 風間浦村教育委員会 教育長

曾根 智子 佐井村教育委員会 教育長

小原 広基 横浜町教育委員会 教育長

【むつ市】

山本 知也 むつ市長

【事務局】

角本 力 政策推進部 部長

黒澤 幸太郎 政策推進部 次長

井戸向 秀明 政策推進部 企画課長

大橋 貴子 政策推進部 企画課 主幹

西田 裕昭 政策推進部 企画課 主幹

川端 寿英 政策推進部 企画課 主任

鳴海 彰仁 政策推進部 企画課 行政実務研修員

1. 開会

2. 辞令交付

(市長より、伊藤委員、野呂委員、中塚委員へ辞令交付)

3. 市長挨拶

本日はお忙しい中、ご出席を賜り、厚く御礼を申し上げます。また本日、新たに委員を受けられた皆様、議論がスタートしますけれども、委員の就任を快くお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。

現在、全国高等学校野球選手権青森大会が開催されておりますけれども、むつ工業高校も大湊高校も本当に、善戦をいたしまして、下北の代表として、本当一生懸命やる姿は、地域の皆さんに光を灯してくれているのではないかなと感じております。この会議も、今年の夏の甲子園の大会のキャッチフレーズ、「ここにかける、ここから始まる。」というキャッチフレーズのように、委員の皆様におかれましては、こどもたちの輝く未来の始まりのために、この検討委員会にそのような思いを持って、意見交換をしていただければありがたいと思います。

今、青森県の総合教育会議を、大谷先生が中心になって開催され、YouTube で流れておりますが、本当に全国でも、先頭的な事例が多数紹介をされております。青森県も少しずつ変わっていくのではないかなと思いますし、私が多く語ると、皆さんの意見が引っ張られそうな気がするので、少しだけにしておきますが、この下北の地区の統合校が決まる前に、こういった議論があれば、もう少し違う形の、方向性にもなっていたのかと思いますけれども、決まったことは決まったこととして、この検討委員会は、去年含んで6回開催いたしまして、県の方に御意見を申し上げるという会になっておりますけれども、こどもたちがどのように学べばいいのか、この地区にとってどういった方向になればいいのかを皆さんから御意見をいただいて、新しい感性でできればいいなと思っておりますので、ぜひ、忌憚のない意見を皆様からいただければと思います。

結びになりますけれども、令和9年度に、開校予定の統合校が、こどもたちが夢を叶えるために成長できる、地域に必要な人材が育成できる、そのような学校になることを祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。皆様、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(市長退席)

4. 委員紹介

(令和6年度新規に委員に就任した方の紹介)

5. 事務局説明

(議事進行：高橋座長)

座長を務めさせていただいております高橋でございます。県教委が欠席ではございますが、ぜひ忌憚のない御意見を聞かせて、いい方向づくりの一つのステップになればいいなと願っています。どうぞよろしくお願いいたします。

いたします。それでは早速事務局から説明をお願いします。

（企画課長からの説明）

むつ市企画課長の井戸向と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本検討委員会は、今年度は３回会議を開催する予定としています。この３回の会議で本検討委員会の意見を取りまとめまして、県が設置いたします開設準備委員会に意見を届けたいと考えておりますので、委員の皆様、オブザーバーの皆様の御協力をお願いいたします。それでは昨年度３回にわたりまして開催されました本委員会の中でいただいた御意見や課題について振り返りということで、私から簡単に御説明させていただきたいと思います。

それでは皆さんのお手元の配付の資料の中で、右上の「資料」と書いてございます３枚ものの資料を御準備いただきたいと思います。こちらの資料はこれまでの３回の会議で出されました御発言・御意見を事務局でまとめたものとなっております。５つのテーマとその他の御意見ということで整理しておりますので、その内容につきまして簡単に御説明させていただきたいと思います。

まず「１．こどもたちが望む学科、地域が必要とする学科について」の学科については総合学科が３学級、工業科が２学級と決定していることを踏まえまして、総合学科の系列や工業科での資格取得に必要な科目等について検討をしていただきました。主な御意見といたしましては、海洋科学やエネルギーなど、地域特性を生かした特色ある科目や看護師、介護士など地域に必要とされる職種に繋がる科目の設定が必要であること、また、第３種電気主任技術者認定候補の継続や、その他の資格取得に生かせる科目の保障に関しての御意見がございました。

続きまして「２．子どもたちが行きたいと思える新校舎について」ですが、こどもたちが愛着と誇りを持てる校舎、学校に行きたいと思うような校舎、全国から生徒が集まる個性的な校舎とするよう、地域の意見を取り入れた学校作りが必要であるというような御意見がございました。また、地域との連携にも活用可能なオープンスペースの設置など、既存の学校像にとらわれないような形での御意見等もございました。

続きまして、ページをめくっていただきまして「３．校舎等について」です。こちら２つに項目を分けさせていただいておりまして、「①両校の現校舎や財産等の利活用について」は、大湊高校の校舎、グラウンド、生徒会館の利活用について検討の必要がある。大学の学部などの誘致をしてはどうか、というような御意見もございました。「②第３期実施計画を見据えた校舎のあり方について」ですけれども、こちらは先に御説明いたしました「２．子どもたちが行きたいと思える新校舎について」と、内容が重なる部分もございますけれども、オンライン授業が対応可能となる機器の設置など、世界中の学校と交流が可能となるような環境整備に関する御意見もございました。

続きまして「４．部活動について」ですけれども、こちらは部活動の実施に関する方針とその取り組み方に対する御意見またグラウンド工事やその使用方法によりましては、活動が制限される可能性があるなどといった御意見がございました。

次に３ページ目、「５．その他」でございますけれども、この部分では寮や下宿スクールバス、統合校のこれ

からの後援会のあり方に関する御意見を記載させていただいております。寮や下宿は特にむつ市外の生徒さんと保護者の皆様にとって非常に重要な問題でございまして整備の必要性が御意見として挙げられております。また、スクールバスへの補助だとか、後援会の今後のあり方についての御意見を頂戴しております。

以上がこれまでの会議の振り返りになりますけれども、このうち、2 ページ目の「3. 校舎等について」と、「4. の部活動について」の 2 点につきまして本日この後、皆様の意見交換をしていただきまして、議論をさらに深めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして先月 6 月にむつ市議会が開会されまして、その中で統合校に関する質問がありましたので、紹介させていただきたいと思います。

右上に「参考」と書かれました 1 枚ものの資料がございまして、そちらを御用意いただきたいと思えます。櫻田秀夫議員から質問がございまして、この質問の内容といたしましては、大湊高校とむつ工業高校の今回の統合に関して、むつ工業高校に隣接しております文京町の市営住宅について、県に対して学校用地として市が協力できないものかという御質問を頂戴いたしまして、これに対し、市長からは「青森県そして青森県教育委員会関係団体の皆様から必要との要望があれば前向きに検討する」というような形で答弁をさせていただいております。ちなみに現時点では県や県教委等から、そのような要望は今のところ市の方にはされておられませんことを御報告させていただきます。

これまでの振り返りについて事務局からは以上となります。

(座長)

それではただいまの説明について、まず御質問・御意見がお有りの方、お願いいたします。これだけの人数しかおりませんので、不規則発言も結構ですし、本音の会議にしたいと思っておりますので、あまり型にこだわらずに、途中でいいですから思いつくことがあったら御発言をぜひお願いします。

(企画課長からの説明)

事務局からもう一点御報告させていただいてもよろしいでしょうか。今年 3 月に進路に関するアンケートを実施しておりますので、その内容について簡単に事務局から御説明させていただきたいと思えます。お手元に厚めの冊子 2 冊をお配りしておりますけれども、一つが児童生徒用、もう一つが保護者用でして、今回の調査期間は 3 月 6 日から 3 月 22 日までの期間で市内の学校に通う小学校 6 年生から高校 3 年生までの児童生徒と、その保護者を対象にいたしましてアンケート調査を行っております。

まずは児童生徒用アンケートの内容につきまして、簡単に御説明させていただきたいと思えます。それではこちら、2 ページをお開きいただいてもよろしいでしょうか。この中段、回答率というようなところで御覧いただきたいのですが、まず先ほど申し上げたように、調査時期が 3 月 6 日から 3 月 22 日までと、年度末で、試

験や卒業式というような期間でございましたのでそれぞれ中学 3 年生が 16.2%、高校 3 年生が 0.7%と特に低くなっておりますので、この中学 3 年生と高校 3 年生の回答数値はあくまでも参考値として捉えていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

続きまして 4 ページをお開きいただきたいと思います。回答していただいた方の対象の住所地についてですけれども、今回のアンケートでは大間町さん、風間浦村さん、佐井村さんにお住まいの方からの回答はございませんでしたので御報告させていただきたいと思います。

ここからは具体的内容になりますが、14 ページと 15 ページをお開きいただきたいと思います。こちらの方は令和 9 年度に下北地区統合校が設置されるということを知っているかというような問いでございますけれども、この右側 15 ページの円グラフを御覧いただきたいのですが「詳しく知っている」と「少し知っている」と、要は、知っているかということですと合計 92%のお子さんが知っているという結果になっております。

またその下の学年別のグラフを御覧いただきたいのですが、統合校の当事者第 1 期生の方たちはこのアンケート時点では小学 6 年生ですけれども、この小学 6 年生の数値を見ますと、18.7%が、統合校が設置されることを知らないという結果になってございます。

続きまして 16 ページと 17 ページをお開き願います。こちらは中学校卒業後の進路についてですけれども右側 17 ページの上の円グラフを御覧いただきたいのですが、中学校卒業後の進路について、下北地区の高校、田名部高校、大湊高校、むつ工業と下北地区統合校のパーセンテージを合計いたしますと全体の 76%の割合で下北地区の高校に進学したいという希望になっております。

またその下の学年別のグラフを御覧いただきますと小学校 6 年生につきましては、その他未定の方が 37.4%と多いのですが、それ以外は 62.6%の方が進学を希望となっており、そのうち統合校への進学を希望している方は 13.4%、大湊高校、むつ工の希望者を含めると 20.3%の方が希望している結果となっております。

続きまして、18 ページと 19 ページをお開きください。こちらは中学校卒業後の進路希望地域についてですが、右側 19 ページの円グラフを御覧いただきますと全体でむつ市内を希望している方が 64%そしてむつ市を含む青森県内となりますと、75%という結果となっております地元志向が強いというような結果になってございます。

続きまして 22 ページから 24 ページにかけての内容になりますが、こちらは中学校卒業後の進学先を決めた最も大きな理由についてですけれども、こちらの 24 ページをお開きいただいて、上の円グラフを御覧いただきますと、通いやすさが 21%、自分の学力と合っていたというのが 17%で、就職に有利が 7%、進学に有利は 6%、必要な資格が取得できるが 5%と、このような形で具体的に高校卒業後の就職や進学を見据えて高校選択している方も多くいらっしゃいまして、また部活動が 8%というような形で就職に有利だとか、進学に有利だとかいうよりも、少し上回っておりまして、このことから部活動が高校選択の要素になっ

ているとも考えられます。

続きまして 37 ページを御覧いただきまして、こちらの 37～41 ページまでにつきましては、ここでは将来の就職を考えて取得したい資格について記載させていただいております。

41 ページをお開きいただきまして、円グラフの方をちょっと御覧いただきたいのですが、希望する、取得したい資格でございますが、英語検定が 14%、また IT 関係の資格が 8%とこの中では高い割合となっておりますこれはグローバル化、DX 化という時代の流れに即した希望になっていると考えております。

また仕事に直結する資格といたしましては、医師や薬剤師、保健師、看護師といった医療従事者医療関係が合計で 13%、保育士が 5%、介護士が 3%、教員免許が 4%という結果になっております。

続きまして 44 ページから最終ページに書いてございますけれども、こちらも自由意見で、将来の夢の実現に向けて、むつ市に取り組んでほしいということについて記載いただいております。多種多様な御意見が記載されておりますけれども、中でも特に市内の大学を増やしてほしいとか、幅広く資格取得ができる高校や大学を増やしてほしいという御意見が多くございました。

以上が児童生徒を対象としたアンケート結果についてでして、続きまして保護者用のアンケートの方を御準備いただければと思います。

2 ページを御確認いただければと思いますが、こちらも児童生徒用と同様、大間町さんと風間浦村さんと佐井村さんにお住まいの方からの回答はございませんでした。

続きまして 6 ページと 7 ページをお開き願います。こちらは令和 9 年度に下北地区統合校が設置されることを知っているかということについてですが、右側 7 ページの円グラフを御覧いただきますと、全体で 97%の保護者が知っていると、またその下の学年別のグラフを見ますと、統合校の当事者でございます小学校 6 年生の保護者につきましては、約 95%が認識しているという結果となっております。

続きまして 8 ページと、9 ページをお開き願います。こちらは中学卒業後の進路についてですが、9 ページの円グラフを御覧いただきますと、82%の保護者が、地元の高校への進学を希望していることがわかります。また下の学年別のグラフを御覧いただきますと、小 6 の保護者の 27.5%が下北地区統合校への進学を希望しておりまして、さらに大湊高校とむつ工を合わせますと 36.7%と 3 割以上の保護者の皆様が、統合校への進学を希望していることがわかります。このことから統合への保護者の皆様の期待が感じられるような結果となっております。

それでは続きまして、10 ページ、11 ページを御覧いただきたいと思います。こちらは中学卒業後の進路希望地域についてですが、11 ページの円グラフを御覧いただきますと、むつ市内が 75%、また県内という範囲に広げますと、合計で 86%となっております。

これは児童生徒のアンケートの結果よりも、それぞれ約 10%程度高い結果となっております、お子さんよ

りも保護者の皆様の方が地元の学校に進学してほしいと考えている結果となっています。

続きまして 12 ページと 13 ページをお開き願います。進学先を希望した最も大きな理由についてですが、13 ページの円グラフを御覧いただきますと、通いやすさは 28%で最も高い割合でございます。続きまして次に高い数値が、こどもの希望というところが 22%と 2 番目に高い割合となってございまして、進学先を希望した理由の大きな理由としてはやはりこどもさんの希望を尊重しているということがうかがえる結果となっております。

それでは最後になりますけれども 33 ページから最後のページまでですが、こちらも自由記入欄という形になるのですが、お子さんの将来の夢の実現に向けてむつ市に取り組んでほしいということにつきましては、スクールバスなどの経済的負担の軽減の他、資格の取得支援や就職先の確保などそういうふうなところを支援してほしいという御意見が多くございました。以上でこちら進路に関するアンケート結果についての事務局からの報告を終了させていただきます。

(座長)

今の説明について御質問等ありますか。2、3分、資料を改めて見ていただく時間をとりたいと思います。

(堺委員)

このアンケートを見ると大間町、風間浦村、佐井村と、アンケートがゼロで大変申し訳ない思いはあるのですが「その他」の住所をわかる範囲でお知らせください。

(企画課長)

こちらはオンラインでの回答となっております、選択方式で、その他を選んで終了という形になっていきますので、把握してございませんでした。

(半田委員)

我々にとってこの結果は非常に参考になる。もう少し早めに我々委員に見せてもらえれば、ゆっくりうちに検討してああそうか、となる。もっと早く、配付してほしい。

（政策推進部長）

御意見ありがとうございます。今回のアンケートにつきましては急に渡されても御意見といってもなかなか出てきませんので、会議はまだ４回目、これから５回目、６回目と続きますので、これをお持ち帰りいただいて、次回にでもまたお気づきの点があれば御意見いただくという形で進めさせていただきたいと思います。

（半田委員）

あと２年しかないけど、間に合うのか。

（政策推進部長）

次の会議で御意見を伺いしたいと思いますので、皆さん申し訳ございませんけども今日説明ありましたので、もう一度、お帰りになってから御覧いただいて、お気づきの点があれば次回の会議でテーマを作りたいと思いますので、お願いいたします。

（濱田委員）

今回のこのアンケートはこの１回で終わりなのか。例えば今回の統合の対象は６年生ですっていう話は非常に参考になると思うが、実際、次の世代のこどもたちもその親も多分いろいろ関係してくると思う。１回で終わりがかっていうところを聞きたい。

（企画課長）

３月に１回実施しておりますが、今のところ次回のアンケート調査についてはまだ検討しておりませんが、必要性に応じまして、その時期等も含めて適切に実施できればと思います。

（中塚委員）

佐井村、大間町、風間浦村の意見が出てないので、もう１回みんな集約して出してほしい。時間があるならば、意見を聞きたい。

（企画課長）

大間町さん風間浦村さん佐井村さんにお住まいの方からの御回答はなかったという、今回のアンケート結果でございましたので、その辺も含め、今後のそのアンケートの実施についても検討したいと思います。

（座長）

私もずいぶん昔ですけど、大間町に２年住んで校長しましたけれど、今の御意見には共感します。その辺はやはりむつ市で考えてほしいと思います。

（半田委員）

大間町、風間浦村、佐井村、横浜町にはアンケート用紙を配ってないのか。

（企画課長）

こちらは市内の学校に通う小学校６年生から高校３年生までの児童生徒と保護者となっています。学校を通じて対象者の皆様に通知して、回答をオンラインで回答していただいておりますが、むつ市内の学校、むつ市立の小学校と中学校と高校になっています。

（半田委員）

風間浦の PTA 会長さんは、我々に対しても調査して欲しいって言っているのではないかな。

（企画課長）

風間浦さんなどの小中学校に通われている生徒は対象としていないようなアンケート調査となっております。

（中塚委員）

大間、風間浦、佐井村、横浜の保護者には全然来てないってことなのか。私達も、ちょっと見たことないので。

(堺委員)

むつ市内以外の村立、町立の子に対してもアンケートの幅を増やしてほしい。

(企画課長)

今委員の皆様から御意見を頂戴しましたとおり、幅を広げて下北圏域、ニーズを調査するという意味でも、調査の方を実施してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(半田委員)

あと2年半でできる。それをやると言えばもう年内にその結果を出して県の方にも出さなければ駄目なのではないか。

(政策推進部長)

5回目の会議でこれを取り上げることにします。回答はオンラインですので、タブレットとかいろいろな方法で回答できますので、それは各町村の方とも相談しながら、次の会議までに間に合うような形で、何らかの形で皆様に報告して議題として御意見を伺いしたいと思います。

(越後林委員)

タブレットを通じて、回答を入れるということか。

(政策推進部長)

タブレットでも、パソコンでも、スマホでも回答できるようにしていますので、いろんな方法があると思います。大体今、スマホとかお持ちですし、お子さんたちは学校でやっていますので、我々よりも使えます。その辺はいろいろ相談しながら、いろいろな方法があると思いますので、速やかに調査できるように、とにかく進めます。

(越後林委員)

タブレット、スマホは私も持っていますが有効にしっかりこなせるかといえば疑問もある。若い父母の方々は、使いやすいのかもしれないが、周知度という心配になる。アンケートが対象の方であっても、積極的に答える気持ちになれるか。もしかするとスマホもタブレットを持っているけど、アクセス方法を知らなかったということもあるだろう。

(政策推進部長)

市内の調査においては、オンラインでの調査でやっていますので、ある程度揃えた方がいいと思っています。一方で、それで足りないということであれば、紙でも調査しますが、回答率が3割を超えているというところでは、統計的には有効な数字であると思いますし、また、保護者、児童生徒の皆さんにはすべからくお伝えするような形で各学校の協力も得て行ったものですので、その中で3割を超える回答があったというところからすれば、このような形でやったとしても、ある程度正確な状況はつかめていると思います。

(越後林委員)

回答率、3割がいいのか、5割がいいのか、6割がいいのかわからない。それをどう評価するのかかわからないが、どうかと思う。

(岩淵委員)

アンケートに関することで内容を拝見しまして、すごく詳細に質問が組み込まれていると感心した。今までアンケートをやってきたが、ここまで細かく回答するのは少なかったのではないかなと思って、まとめるのも大変だったのでは、と感心した。先ほどの委員の皆様からお話があったように不足部分もあるだろうし、また時期的なこと、さらに言えば、こどもたちの気持ちも変わることも予想されるので、まだまだ機会があればお願いしたい。例えば質問を少し絞ってもいいかもしれないし、内容自体はすごくいいので、継続して、聞いていくことができれば今後の教育方針の指針にもなるような内容だと感じました。

(座長)

私もいろいろアンケート調査を長くやってきましたけれど、昔は紙で調査票を作りましたけれど、今はそういった調査はほとんどなくて、実際は電子媒体で答えるやり方が普通になっています。科学性もそれなりに実証

されていることですから、これはこれで考える参考になると思っています。

（堺委員）

私達保護者の場合、学校からの学校調査とかの回収率って大体 8 割以上だから確実性がある。先ほど 3 割とおっしゃったが、全世帯、例えばむつ市全世帯に渡して、それで回収したときに 3 割あれば有効な結果が得られるかもしれないが、やはりこどもたちの教育の現場で、こどもたちに確実に渡している状況だと、最低でも 6 割以上があれば、有効な回答率だと思うが、むつ市はそこをどう考えているのか。

（政策推進部長）

確かに、回答が多ければ多いほどその御意見というのも多く聞けると思いますし、またその方向性というの、どんどん確実なものになっていくとは思いますが、一定の方向を見る上でこの回収率というのは、先ほども申しました通り、対象の全部の児童生徒と保護者に向けて発信した結果、3 割を超えていたということです。一定の方向性は見えていると思います。ただ、もっと正確につかまなければならないのでは、ということになるともう少し御協力をいただかなければならないと思います。

（半田委員）

そろそろ設計に入る。大体そうすると、いわゆる委員会の意見をどの程度県の方では汲んでくれるのか。全部汲むわけではないだろう。予算もあるし、大体 6 割から 7 割ぐらい汲んでくれるものなのか、それとも県への要望に半分挙げるのか、我々のどういう意見を特に汲んでくれるのか。我々が意見を述べても県の方では駄目だということもあるだろう。これは、無理だとか。

（座長）

それは誰に聞いてもわからないのではないかと。阿部教育長にお答えいただきたいと思います。

（阿部委員）

あくまで内容によると思う。むつ市のこの最初の会議に県の施設課の課長以下全員が来ている。通常あり得ないことで、県はそれだけ下北の統合校に関心を寄せて意見を聞こうという姿勢を示している。その姿勢が具体的にどういう形になるかに関しては、我々がどういう意見をまとめて、それを伝えるかにかかっていると

思う。我々が、一つにまとめるのであれば、叶う確率は高くなっていくと思う。時期的な問題や財政的な問題で叶わないこともあるかもしれないが、なるべく県の姿勢がこちらを向いているこの時期、我々の意見をまとめて、それを県の方に強くお願いをする、我々の仕事はそういうことかなと考えているので皆の意見をまとめていければと思う。

（座長）

この問題とは別の何か、今までやったところまでで関連する質問や意見がある方はいらっしゃいますか。

（濱田委員）

今日は県の方が来ていない。第5回、第6回の会議も来るか来ないか正直わからないと思う。この3回の会議での意見を集約して県にきちんと提案します、お伝えしますということでその意見を県が聞いて検討するのは令和7年からか。このスケジュール感がもうちょっと少し見えるように次からしてもらいたい。実際1年間で3回集まって話して、県に出すのが12月末です、それを県が受け入れて検討するのが来年度ですってなると、もう全てが多分、後手に回ると思うのでその辺のスケジュール管理的なものをしっかりと市の方で行っていただきたいと思う。

（企画課長）

濱田委員から御意見ございましたけれども、県教委とも調整いたしましてスケジュール感を、委員の皆様にお示しできるように調整したいと思います。

（半田委員）

今日はこの資料の中身の議題には入らないのか。例えば、こどもたちが望む学科とか、部活動についてとか踏み込んだ話はしないのか。

（企画課長）

次第を御覧いただきたいのですが、例えば5番の事務局説明のところでは前回までの振り返りと進路に関するアンケートの結果について御説明させていただいて皆様から御意見を頂戴しております。この次の、議事に入りまして、委員の皆様の意見交換をお配りしてある資料の校舎等についてと部活動について議論を深め

ていただきたく、意見交換の方をお願いしたいと考えておりました。これからはそれぞれのテーマに沿って、委員の皆様で意見交換をかわしていただきたく存じます。

(座長)

それでは校舎等について議論を進めたいと思いますが、事務局で説明はないですか。

(企画課長)

(資料の)「3. 校舎等について」ですけれども、御覧の通り①②でちょっと整理させていただいてまして、「①両行の現校舎や財産等の利活用について」は、大湊高校の校舎グラウンド生徒会館とか跡地利用ということ、大学などの誘致についての御意見がこれまであったところです。あと「②第3期実施計画を見据えた校舎のあり方について」は、地域の皆様も利用できるような形での多目的に利用できるオープンスペースの設置だとかオンライン授業が対応可能となる全教室でオンライン機器を設置するなど、県内の学校にとどまらず、世界中の学校と交流できるような環境整備が必要ではないかという意見がこれまで出ておりました。

(座長)

今事務局から説明があったのがこれまでの議論の経緯ですけれども、委員の皆様、御意見ありますか。

(佐々木委員)

大湊高校の校舎、グラウンド、生徒会館とあるが、校舎とグラウンドは県の所有物で、生徒会館については、土地は県の土地で、会館は後援会の持ち物となっており、多分この「大湊高校(県)の対応を確認」というのは、その生徒会館の現状復帰ということを書いているかと思う。この件については、前理事長と前大湊高校の校長との契約がありまして、原状復帰はいらないという認識。

(企画課長)

申し訳ございません。私どもで把握しておりませんのでこのような資料の記載となっておりましたことをお詫び申し上げます。情報提供ありがとうございました。

(座長)

校舎の利活用、大湊高校の生徒会館については前にも意見があった件ですが、他に御意見等ございますか。どこの地区でも学校は図体が大きいので、利活用はなかなか難しい。誘致企業などが入って、従業員をたくさん採用して成功しているのを見たことがございますけれども、10年後ぐらいにはもうほとんど跡形も無いということが圧倒的に多いようにも思います。

(佐々木委員)

付け加えますと、川内高校の生徒会館は今でもそのまま残っている。大畑高校に関しては、土地が旧大畑町のもので、あと後援会の方の予算も何かそのときあったようで、こちらは更地になっていると聞いています。

(企画課長)

ありがとうございます。県の持ち物なので、把握しきれないことがございました。情報提供、感謝申し上げます。

(又村委員)

校舎等についての話し合いなので土地に関することだが。この定例会では、関係団体から必要とあれば、前向きに検討したいという回答をしているが、この会として、何かそういうことをとりまとめて県に提出してもらいたいということの意見の集約が必要ではないか。

(座長)

何か御意見はありますか。市の方に向けた話だと思いたいますが。

(阿部委員)

教育委員会では所管できない事項ではあるが、御指名いただきましたので。今又村会長がおっしゃったように、市から委託を受けて、こういう会議をやっていて、というお話を、こどもたちのために、地域のために一枚岩になって、今意見をまとめようとしているので、我々が議論をして、それが必要だという結論に達したら、それを我々の総意として市の方に申し伝えることは非常に有意義なことだと考える。

(佐々木委員)

大学の学部の誘致とあるが、この会議で何か意見をまとめるつもりなのか。

(政策推進部長)

この項目につきましては、以前の会合でこういう使い方もあるのではないかということで、委員の方から提案があったものです。今のところ市の方でこれを活用した学部の誘致という話があるわけではありません。もし大学等が、ここを使いたいと話があれば、県の方の持ち物ですのでそこはお繋ぎしていきますが、今のところ誘致の話があるわけではない。

(岩淵委員)

会議で議論を重ねて、ある程度固まった意見を、何か県の方に要望として挙げた事項というのは、今までであるのか。

(政策推進部長)

会議の趣旨とすれば、6回会議を開いてそれを踏まえて県の方が準備委員会を設置するということですので、それにお繋ぎするという趣旨の会ですので、これまで直接お伝えするということはしていません。今日は来ていませんが3回目までは県の方が出席していて、その趣旨を持ち帰って教育委員会の中で共有されていますので、そういった意味で繋がっていると思います。委員の御意見を踏まえてこれからということを考えますと最終的には最後の会合のときに、事務局の方からこういう内容で県に提案したいと思っています、という内容を御承認いただいた上で、県の方に繋いでいきたいと今のところ考えています。

(岩淵委員)

校舎とかそういったところは多分設計とかもほとんど進んでいるのではないかと想像できるが、そういったところに今の会議の意向が反映されているかがまだ不透明なところがあると感じている。持ち帰って反映してくれているのか、確認を踏まえて、知識として伝わっているのか確認していただきたいし、伝わっていないのであれば要望しなきゃいけない。

(座長)

設計とか進んでいるのではないかという御発言ですが、市での情報はどうですか。

(政策推進部長)

確認しているわけではありません。ただし、県の方で課長さんですとか、設計を担当している技師さんですとか、そういった方が直接ここに来て説明して委員の皆さんからも、直接的にいろいろな意見があったかと思えますので、先ほどの県の方がどれくらいここでの意見を踏まえてというところになると、判断は県の方がするということですので、先ほど言った、お繋ぎするというのは遅くとも年度内にはしたいと思っています。これは少なくとも、来年度から開設準備委員会を設置するというような話をしていますし、ということであれば、それまでにそれに間に合うように話していかなければならないと思いますし、また、たまたま今日は都合が悪くて出席されていませんけれども、また次回から出席していただくようには調整して、皆さんの御意見を聞いていただきたいと思います。

(座長)

余計なことですけど、学校でどういう教育活動するかっていうのがまず先にあって、それに合わせた校舎作りが基本だと思う。下北地区の学校については、どういう教育活動する学校かということが確定していないっていうのは私も思っています。当たっているかわかりませんが。ですから、少なくとも建物のところには、全く手がついていないのではないかと思います。

(内田委員)

設計の業務は昨年、もう発注されている。来年の2月14日が履行期限だということが出ていますので統合校の建物がどうなるかは、図面上は、この時期はほぼ出来上がっている。座長がおっしゃったような教育内容をどうしますか、どんな学校にしていきますかそれに合わせて建物をどうしていきますかということについては、多分もう間に合わないと思個人的には思う。設計業務委託が来年の2月で完了だということもおそらく大体概算で決まっていて、予算も決まっていると思う。

(畑中委員)

以前、確かに図面配られて、高校野球のグラウンドをどこに取るか取れるのかという話も出た。図面はでき

ているので、もうそこは変えられないと思う。問題はこの部活、この統合で何々部活を設けるか、そういう話は進んでいるのか、それとも統合校には、例えばバスケット部、バレー部、その他に何部とかを設けるとか、そういうのはこの統合委員会で決めるのか。配置するスタッフというのは、統合が始まる前にもう、どういう部活がありますよって中学生とかに報告になると思うが、そういうのは細かく決まっているのか。

（企画課長）

県の方で、令和 7 年度に開設準備委員会なるものを設置する予定となっておりまして、その場で、具体的に部活動だとか、そういった部分を検討していくと伺っています。例えば、部活動、具体的に野球部が設置されるとか、そのようなことはまだ決定していないと思いますので、これは私達の検討委員会で、具体的な部活動について、意見を、お届けできればいいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

（畑中委員）

図面が決まっている以上、屋外でなくて、室内でやる部活動は限りが出てくると思う。そういう場合は、例えばバドミントン、バレー、卓球、バスケット、他の室内でやる球技とかはどうしても絞らないといけない時期が来るのではないかと思います。

（佐々木委員）

私の認識では今両校にある部活動をそのまま継続できと思っていたが違うのか。例えば、ちょっと変わったところと言えば、大湊高校のヨット部とか、今現在にあるものをなくするというのは県の考えとしてないと思うが。

（企画課長）

青森県の方では開設準備委員会が来年度設置されて、そこで部活動だとか、まだ学校名も決まっていませんので、例えば学校名だとかそういうのも、検討されていくのではと思っております、部活動等についてはだいぶまだ不透明なところがございます。次の議題が部活動ですが、例えば、令和 9 年度にこの統合校の方が開設されます。そうすると統合校には 1 年生だけしか入学してない状況になります。一方で大湊高校さんとおつ工業高校さんは前年度で募集停止しておりますので、2 年生と 3 年生しかいないというような状況になります。統合校は 1 学年しかない一方で、大湊高校さんとおつ工業さんは 2、3 年生の 2 学年いる状況で、3 校がはたしてどういう形で部活動を展開していくのか、それぞれ単独でやっていくのか、また、連携してやって

いくのかとか、ちょっと見えない状況ですので、きっと県はこれからそのあたりも深く検討していかなければならないような状況になりますので、私達としましては、そういう検討事項もございますので、このような形にしてほしいとか、要望事項をこの検討委員会でまとめて県の方にお伝えできればと思っておりました。

（木村委員）

これまで3回開催した中で、この資料に集約されているかと思うが、これ以上何を話すのか。これ以上何をここで決めていくのかっていうのが疑問。どこに落としどころを持っていくのか。要望をまとめていくのか、もっと要望を出してほしいのか、どうしていけばいいのか。あとは今日このアンケートをいただいた中で目を通して、児童生徒の意見だったりとか、保護者の方の要望だったりとかっていうのが結構具体的に載っていたりするので、その辺の活用というのもこれから考えて第6回の最終を締めるのか。時間軸的に考えると、ちょっと遅いのではないかな。令和7年度の開設準備委員会を開設するということに関しては、その前からもっと早く開設してほしいという声もこの場であげていたはず。もっと早く進めていった方がいいのではないかな。この会議でどうやっていこうというのを具体的な方向性を示していただきたいと思う。校舎等について、活動について、ここにほぼ集約されていることだと思う。具体的にそれをどうしていくかという部分は、県の会議の方向性を見ないとわからないということであれば、何か無駄な気がします。落としどころを決めた方がいいと思う。

（政策推進部長）

3回目の会議のとき御説明させていただいたことで、それからもう数ヶ月経っているというところで、今資料にあります4点その他というところについては、1回目、2回目の会議に皆さんから御意見を伺ったものです。1点目・2点目につきましては、3回目の会議のときに皆様に深掘りしていただいたものです。そのような説明もさせていただいてまして、今回の会議については、3点目・4点目、校舎等と部活動については深掘りしていきたいなところだったのですが、アンケートの話とかいろいろありまして、論点が少しばやけてしまったのかなという印象があります。ただ、委員の皆さんおっしゃる通り、ある程度ここはもう意見が出尽くしているというところであれば、これをまた整理して次の会議に向けて、まとめを皆さんに提示して次はその他の部分、これも御意見として挙がってきたところですけども、寮とか下宿、スクールバス、その後の後援会組織であるとか、そういうものについてどうするのかというのを次回お話して、そこまでいくと、皆さんから御意見いただいた部分については、ある程度全部、今日また新たにアンケートという話もいただきましたので、ここを5回目によれば、大体意見は出尽くすと思いますので、県の方に繋いでいくというところに、持っていければと考えての今回の会議でございました。伝わらなくて申し訳ございません。

(濱田委員)

校舎と部活動に関連して。むつ工業高校の今のグラウンドに新しい校舎が建つ、そこには新 1 年生が入るが、大湊高校とむつ工業も 2、3 年生がいる状態。そして、3 年生はそのまま卒業だと思う。そのむつ工業高校の校舎で卒業となると、この 1 年生の子たちは、グラウンドがない状態で 3 年間を迎えるってことなのか。そこを県にも聞いてほしい。2、3 年生が卒業して初めて校舎を壊してとなると、こどもたちはグラウンドがない状態で学校を卒業しないといけないので、その辺をもうちょっと詰めてほしい。私が以前お願いしている運動場の話。その子たち、むつ工業 2 年生 3 年生、統合校 1 年生の部活動をする場所はどこですかという話をたくさんしてきて、運動公園は、市長はいいですよという話はしてくれたが。野球部はどこで練習するのか、と。その辺も県にお話ししたら、そこは市です、みたいなことで。運動公園使えばいいみたいな話になったので、あそこでは硬式野球はできないという話をした。市の方では、やはりあまりにもその改修工事というかお金がかかります、と。そういう話をされたが、この子たちのことを考えると、何かしなきゃいけない。できません、というのは十分承知しているが、やるためにはどうしなければならないのかというのを考えるのが多分、我々の役目だと思うので。お金もかかるし、難しいというのは、承知しているが、どうにかしてあげなきゃいけない。県の方からは運動公園は知らないですって言われているので、市の方にだいぶご苦勞をかけるが、そこはもう、必死で頑張ってもらいたい。以前、半田委員がバイパスを通してって話もしてくれたが、それはまた別の問題。その辺も全部含めてどうしないといけないのかということを、すいませんが、もう一つ二つ掘り下げて考えていただきたい。

(企画課長)

ありがとうございます。県の方にも、本日出席はしておりませんがただいまの濱田委員からございました御意見の方はもちろんお伝えさせていただいて、また市の方といたしましても連携して協力できる部分は協力してまいります。

(又村委員)

これに関連して、このような条件をきちとしないと、新しく募集したときに入ってくるこどもたちの人数とか、変わってくるかと思う。非常に大きい問題だと思うのでぜひ取り組んでいただきたい。

(座長)

新聞報道で見たのですが、教育委員会の方でも委員会が作られたという話がありますが、市の方には何かお話があるとか、誰かメンバーになっているということはあるですか。市として何か関与はありますか。

(政策推進部長)

何か検討に入っているという情報はありません。会議体自体が今ありませんので、今この場が全てだと私は思っています。そういう関与はありません。

(佐々木委員)

部活動は、例えば、やりたい人が集まって同好会を作って、人数が集まって部活動になるというケースもあると思う。両校長先生に確認したいのですが、部活動については県が決めるのか、学校が決めるのか。

(野呂委員)

県が決めるということはないと思う。同好会になるか部活になるかというのは学校の中の規程がまたあって、規程は多分準備委員会とかで決めていくと思う。そういう活動に関しても、先ほど市の方がした具体的話に関しては、準備委員会の方で話し合われていくと思う。ただ、我々としては、こういう特性・特徴があるので、こういう部活動はぜひ残してほしいとか、そういうのは伝えて、それを踏まえての委員会での検討になると思う。

(堺委員)

今現在、両校の部活動、全生徒の中での部活の参加割合と、愛好会みたいなそういうのもどれぐらいか、わかればお伺いしたい。

(野呂委員)

具体の数値ではないが、7、8割の子は部活に入っていると思う。

(伊藤委員)

こちらは、本当にびっくりするぐらい部活に入っていない

(堺委員)

愛好会の数はどうか。

(野呂委員)

うちは 6 ある。スポーツが 3。

(伊藤委員)

うちは、同好会はない。部活と、あとは委員会という形。生徒が部活に入らなくなっている。通っている場所が遠いとか、他に楽しいことがあるのかな、と。

(政策推進部長)

ちょっと前に大湊高校の佐々木後援会長さんから部活動は当然そのまま引き継ぐことでいいよね、というような御意見がありましたが、それはこの場の総意かな、と。もう新しい学校に野球部がないとなれば、生徒さんは考えると思います。そういう部分は、ここの意見として、県の方にお伝えしてこうしてほしいというような要望事項の一つに取り込んでいきたいと思ひますし、それが進路選択に繋がるかもしれないのでそれはしっかりと統合校が開設する前に示さないといけないと思ひております。

(座長)

部活命で学校に来ている生徒さんもたくさんいるので。

(半田委員)

今の 2 年生までは学校で卒業できると思うが。大湊高校もむつ工業も。そうすると、募集停止はいつからか。試験はどうするのか。

(企画課長)

統合校の試験は令和 8 年度中に試験を受けて、令和 9 年度に入学します。

(半田委員)

統合校ができた後の、大湊高校とむつ工業高校の2、3年生はどうなるのか。くつつくのか。

(企画課長)

そのままです。新しい学校は1年生がいて、大湊、むつ工は2、3年生がいて、次の年は、新しい学校では1、2年生がいて、大湊、むつ工は3年生のみになります。

(半田委員)

3つの高校を1つにすればいいのではないか。

(堺委員)

それが考えられると今の部活動のカテゴリーという、部活って大変になる。状況的に、子どもたちに悲しい思いをさせるような気がしてならない。

(企画課長)

令和9年度と令和10年度の2年にそのような状況が発生します。そのような状況で、各校で活動を行うと人数がどうしても少ないので果たして各校単独でできるのかというところもございますので、連携してやっていくのかも、県には考えていただきたいと思いますので、この辺りをこの検討委員会での意見としてまとめて、要望事項として挙げられればと思います。

(半田委員)

統合は合併ってことでしょう。3つがくつつくものだと思っていた。

(阿部委員)

今も活動している部活があるから、それを卒業まで頑張らせることは大前提だと思うので、それが叶うよう

な形で我々の方も総意を結集していく。先ほど佐々木理事長さんおっしゃったように、今ある部活を一生懸命やっているから残してほしいと、そこを我々が集結して、県の方に提案をすべきだと思う。統合するのだから一緒に最初からということに関しては、全国的に、一緒に教育活動をしているので小中学校でなら可能。ただ高校生の場合は学科がそもそも違うので。むつ工業高校さんがわかりやすいと思うが、今 3 学科あるが令和 9 年度からは 2 学科になる。学科が違うので、一緒にはなれない。そういう違いがあるので、そうした高校の特性を考えた上で、それは通常通りやってもらって、ただし今皆さんがおっしゃっているように、部活の大事な活動、それは大人の知恵でできるので、新聞を見ればわかるが、甲子園では、複数校の学校が工夫している。元々同じ学校なのだから、統合校ができたからといって、1 年生だけで出ることも無茶なこと。そういうことをちゃんと我々は訴えていけば御懸念は解消されると思う。

（座長）

基本的に各部の練習する施設ということになると、これまでと大きく変えないといけないということはないわけですね。あまりないような部活がこの地域で盛んだということになれば、新しい学校でそれは守らないといけない、あるいは新しい学校より活動が活性化するような、何かやらないといけないという意見の出し方もあると思う。現場の意見はどうですか。

（伊藤委員）

いろいろ伺って、いろいろ考えさせられるところですけども、まだ全然本当に部活動に対してというのは全く決まっていない状況。これからということなので、今日皆さん方からいただいた意見を踏まえて、また意見を出していただいて、それを準備委員会で、ということになると思う。

（座長）

だいぶ時間も長くなりました。今日の感想ですが、話が煮詰まる場所は煮詰まってきて、これからが大事なところだという感想を強く持ちました。確認しておきたいのは、あくまでも学校は県立ですが、地元の協力が必要なのは言うまでもないことなので、地元としても意見をしっかりまとめて、それを反映させた学校にしていこうということを今後も続けていかなければならない。意見を集約して、いい学校にできればいいと思う。産業の面も含めて地元にとって学校がいかに大切かということを思い知らされた。

オブザーバーの方々がいらっしゃいますので、御意見をお願いできればと思います。

(風間浦村教育長)

アンケートの件が、話題になりましたけれども、これまでのいろいろな傾向とか、そういうものを作るためのものだったと思います。大事なのはアンケートを何のためにとったのかということ。最初の 3 枚ものの資料の中で、総合学科 3 学級と、それから工業科 2 学級、どんな総合学科を地元の親と子ども達が望むのかというのをおそらく把握するために取っていると思います。そこの結果として、例として書いていると思います。その根拠となるものとして。校舎についてですけれども、これはもう既に資材とか発注されているのであれば、いくらここで検討しても、それは難しいのかな、と。本来であれば、こういう図面ができました、こういう設計をしましたというのをこの検討委員会に示して、それでこの検討委員会の中で議論して、要望を出していくのがいいやり方なのではないか。そうして、校舎に関しても、私達の要望が少しでも叶うのかな、と。部活については今この場で確認された通り、やはりむつ・下北、特にむつ工業高校、大湊高校も共通するのは、田名部高校も含めて、ローイングというか、そういう部分がやはり特色であるし、この地域の強みでもありますので、そういうものを前提として、考えていけばいいと思う。そこは OB の方々の意見とか大事ですがそういう形ですくってもらえればと思う。思ったのは、PTA 濱田会長さんのグラウンドの件です。むつ工と統合校がどこで活動するか。3 年間使いますよね。そういうことを考えているのか、そちらの方が大事だなと思いました。地域の方々の意見を出し合う機会は大事ですので、この機会にぜひ大事にして、意見要望が少しでも反映されれば、と思った

(横浜町教育長)

上北ではありますが、御存知の通りむつ市とは教育の面でも生活の面でも非常に色濃く繋がっている部分がありますので他人事ではない、自分事としてこの会議に参加させていただいております。横浜町では、教育委員会主管で郷土館が来年度オープン予定ですが、今風間浦村の村上教育長さんから出されたように、基本設計に関しては、我々素人はわからないので、例えば今県教委で校舎の青写真等々概要でも示せるものがあればそれを元にして、私達がこの場合、これは例えば、学食ランチルームのようなものを作るのか、よくないとか、いやこれはあった方がいいとか、そういった具体的なことがあれば、やはり話し合いやすくなっていくと思います。何も無い真っ白の状況で、委員の皆さんお一人お一人おっしゃっていること御意見は全部ごもつともなだと思います。ただそれを集約して次の段階に行かないと、難しいのではないかと。今日話し合ったことをある程度集約して、次に繋げる、その役を座長さんがやるものなのか、事務局なのか。何かそういったところが、前回こうだったから、今回はこれについてもうほぼ決めていきましょうというようなスピード感でいかないとこれなかなか話の論点が、どこなのかということになる。今日の会議に関してはややわからずじまいで終わり、申し訳ないです。委員の方々一生懸命だな、と。ただやはり県立学校ですから、基本的なコンセプトとか設計等に関しては、概要を私達に示して、それをふまえて、具体的に検討した意見を県の方に示していくというような段取り、県と再確認してやった方が生産的な話し合い、具体的な進展が得られるのでは、という感想を持ちました。また次も参加したいと思います。

(企画課長)

貴重な御意見ありがとうございます。県の方では設計業務の方を進めているということですので、次回の会議でお示しできるような図面だとか、そういうものを御提供いただくように当市からもお願いして効率的なご議論になるようにまとめてまいりたいので御理解賜りたいと存じます。

(大間町教育長)

私は今日初めての参加です。今まで課長が出ていましたが、私も同じ大湊高校出身ということで非常に気がかりです。今までの意見は資料を見るといろいろと出ています。今日はこれらの意見を集約するのかなと私は率直に思いました。そうしないと今後の事が何も決まらない。一つ一つ、委員会の意見・総意として決めていかないと、日にちが迫って何も委員会として意味を持たないのではないのかなと率直に思いました。皆さんの意見はもういろいろ出ている。考え方を統一して要望することは要望する、県に確認するのは確認する、そういうことを一つ一つ積み重ねていかないといけないと感じました。ぜひスピード感を持って、私も大湊高校出身ということで、皆さんの御意見を期待して、立派な新しい統合校になることを期待しておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

(佐井村教育長)

私も今日初めて出席させていただきました。今まで課長が出ておりましたが、大切な会議ということで今日参加させていただいております。私も率直に感想を述べさせていただきたいと思います。委員の皆様の本当に熱い想い、御意見も一つ一つ本当に大切な御意見だと思って聞かせていただきました。その中でむつエの木村さんの御意見で、これ以上何を決めていくのか、落としどころはどこだというお話があったのですが、本当にごもつともな御意見だなと思ひまして今日の会議はどこに落ちていくのかと思って聞かせていただきました。大事な御意見がそのまま流れていかなければいいなと思ひしております。例えば、又村さん、むつエの隣の土地、市議会でも話題になったというところですけども、その土地を私達としてはやはり大切に、県の方に提供というかそういう形で持っていったらいいのではないのかというのをこの会の意見として持っていくことはできるというような、非常に貴重な御意見であったと思ひます。その部分を今日は決定していくのかなと思ひましたが、多分次の会議になると思ひます。そういう貴重な御意見をそのままにしないで例えば部活動のところもありましたけども、部活動はやはり自分も校長権限なんじゃないのかなと理解しておりますけれども、そうだとしめてこの会議でこれからの、そのこどもたちのため、例えばここだけは絶対残したいとか、そういう意見集約ができれば、県の方にも要望として持っていきやすいのではないのかと思ひます。十人いれば十人に意見がありますが、その中で何にウエイトを置いて、これだけは絶対持っていこうとか、これだけはこのこどもたちのために、先ほどむつエのグラウンドの運動場の話も出ましたけども、本当に切実な問題だと思ひます。こど

もたちが3年間運動する場所が確保できないというのは本当であってはいけない話だと思って私も伺っていましたが、そういう本当に貴重な御意見をなくさないで、いつどこで意思統一して、この会の意見としてまとめて持っていくのかという、そのあたりのことが非常に重要になっていくのではないのかなと考えました。皆さんのそういう熱い思いが無駄にならないような形で県に届きますように、これからもぜひ参加させていただきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

（政策推進部長）

本日は皆さんの貴重な時間を、言葉を選ばずに言うと、奪ってしましまして申し訳ございません。本日の意見をまとめまして、また次の会議に生かしていきたいと思っておりますけれども、皆様がおっしゃる通り時間もありませんし、これを県の方に繋ぐように、これから我々の方で県とも意見交換しながら皆様に情報も提供しながら進めてまいりたいと考えております。本日は大変不手際がありまして申し訳ございませんでした。このようなことがないように、次の会議に向けて準備してまいりたいと思います。よろしくお願いします。

（座長）

皆さんの積極的な御発言があって、いろんな意見が出されたということがわかります。これから新しくできる学校に繋げていかなければいけないという思いを強くいたしました。本日は長時間ありがとうございました。